



## TOP MESSAGE

代表取締役社長

矢倉敏行

まず、昨年(2021年)5月11日に弊社湯本工場で発生した爆発火災事故において、負傷された方々をはじめ各方面の皆様に対し、多大なるご迷惑とご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。当事故につきましては、後ほど別ページ(P.14ご参照)において詳細をご報告いたします。

さて、2021年度の環境・社会等に関する取り組みがまとまりました。これらをご報告するにあたり、私から一言申し上げます。

当社は電子材料や化粧品材料をはじめ、顔料、樹脂添加剤、触媒、有機化学品、医薬品等、様々な産業や人々の暮らしを支える事業を展開しております。私たちは持続可能な社会を支える存在として、ESG経営を体現していかなければなりません。私たちが掲げるミッション「化学でやさしい未来づくり」には、そのような思いを込めています。

本年4月より、当社は東証プライム市場の上場会社として新たにスタートを切りました。資本市場において経済価値を高めつつ、事業活動を通じて得た富をいかに社会に還元するかが私たちの大きな課題です。

当社におきましては、「人々を幸せにする」「地球環境を守る」「モノづくりで社会の課題を解決する」「透明で強固な経営体制を築く」の4つをテーマに11のマテリアリティとKPIを設定し、各取り組みを開始したところです。この取り組みはまだ緒に就いたばかりですが、概要を以下にご説明いたします。

### 【環境】

今や世界的課題であるCO<sub>2</sub>排出量の削減は、当社においても最重要課題のひとつであり、2030年度削減率(対2013年度比)を30%と定め、2050年のカーボンニュートラル達成に向けて、ロードマップを策定しました。今後は生産プロセスの見直しや次世代エネルギーの導入なども含めて検討を進めてまいります。また、予てからの課題である廃棄物量の削減については、2025年度削減率(対2021年度比)を25%と定め、原料鉱石からの収率向上をはじめ、3R(Reduce, Reuse, Recycle)を推進しております。いずれも中長期的な取り組みですが、着実に進めてまいります。

### 【社会】

一般の湯本工場の事故を踏まえ、工場操業における保安防災

と安全衛生の強化を最重要課題としております。大変不名誉ながら、2022年度には湯本工場を含む小浜事業所が安全管理特別指導事業場に指定されました。これを機に、社員や関係者が、より安全でかつ安心して働ける職場づくりに努めてまいります。

一方で、社員のやりがいと幸福を実現する取り組みも進めています。人事制度を刷新し、様々な社員が勤務場所を選択でき、家庭事情やライフステージに応じた働き方を可能にするとともに、学歴や年功に関係なくチャレンジし、能力を開花できる環境を整えているところです。さらに、様々な価値観を認め合い、多様性に富んだ活気あふれる風土づくりにも取り組んでまいります。

### 【コーポレート・ガバナンス】

当社の取締役会における重要課題に、事業ポートフォリオの見直しと経営人材の育成があります。この変化の激しい状況においては、私たちはこれまで以上に今後どの方向を目指すべきかを真剣に議論していかなければなりません。そして、その方向へ組織を力強く推し進める人材、さらには将来の方向を自ら考え、指し示すことのできる人材の育成が急務と考えております。

2021年度から導入した執行役員制度を最大限に活かしつつ、この課題に取り組んでまいります。

現在もなお、新型コロナウイルスは収束を見せず、ウクライナ情勢は緊迫した状況が続いています。私たちを取り巻く環境は、ここ数年間であらゆる分野において大きく様変わりしました。特にウクライナ情勢は、エネルギーや食糧問題といった生活に不可欠な領域のリスクを顕在化させ、この先もしばらくは混沌とした時代が続くものと覚悟しなければなりません。

そうした中でも、私たちはサステナブルな存在として社会に価値を提供し続けなければなりません。そのためには既存事業に囚われることなく、新規製品の開発・上市を製販一体となって早急に進めるため、組織変更や人材育成をはじめ、DX等を活用した業務全般の効率化や生産体制の見直しなどの改革を実行しているところです。

ステークホルダーの皆様におかれましては、今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。